

日野原重明記念「新老人の会」石川



会報 (50号)

発行日 2022年1月1日(土)



新年のご挨拶



世話人代表 鈴木雅夫

新年明けましておめでとうございます。皆様お変わりなく健やかに新年をお迎えになられましたでしょうか。

昨年は新型コロナの為にいろいろと悩まされ続けた一年でしたが、皆様ワクチン接種も終えられて感染力も落ち着き出しているように思われますので、今年は穏やかな良い年になっていくのではないかと考えております。

日野原先生がご逝去なされて今年は5年目になりますが、先生の著書(10冊以上になりますが)を読んでいると、生き活きとした先生の姿が浮かんで参り、楽しかった講演会が思い出されます。金沢での時だったかと思いますが、「鳥は生まれついた飛び方を変えることが出来ない、動物は這い方、走り方を変えることが出来ない、けれども人間は生き方を変えることが出来ます。限りある命をどう生きようかと考えることが出来るのは、人間だけに許された特権なのです」と話されたことがしっかりと思い出されます。皆様、今年はコロナ禍を乗り越えて、新しい生き方で頑張りましょう。



2021年度第3回会員の集い&昼食懇話会の開催

高木正二

2021年度第3回会員の集い&昼食懇話会が、11月6日(土)、金沢ニューグランドホテル3階パラッツオで、27人の会員の参加のもと開催されました。

新型コロナの影響で、会員が一堂に顔を合わせるのは一昨年以來約2年ぶりです。久しぶりの再会に、皆さん笑顔が絶えず、おしゃべりに花を咲かせていました。無事に開催できたことを本当にうれしく思っています。

山内事務局長の司会で開会し、鈴木世話人代表の挨拶に続いて、大学共同利用機関 自然科学研究機構 名誉教授の西 信之先生が、「脱炭素エネルギー社会を目指して～水素の役割～」と題して講演をされました。

西先生は、①地球温暖化が急激に進んでおり、その原因となる二酸化炭素を減少させる必要がある。②そのためには、石炭などの化石燃料の使用をやめなければならないが、



挨拶する鈴木代表



講演する西先生

車の燃料や暖房用の石油をすべて電気に置き換えることは、現時点では不可能である。③太陽光発電や風力発電などの自然エネルギー発電もあるが、これらにも問題があり、直ちに解決策とはならない。④洋上風力発電で起こした電気で水を電気分解して水素を作り、それを燃焼させて発電する水素発電、燃料電池による発電が有力であると考えている。⑤西先生が開発に携わった材料(MCND)を心臓部に使用したトヨタの「新型ミライ」の燃料電池は、世界一の性能である。⑥世界的にガソリン車やディーゼルエンジン車の販売を禁止する動きが進んでおり、十数年後には石油が売れなくなる。

⑦自動車以外でも燃料電池等を使用した電車や大型トラックを運行する計画が進んでいる。⑧以上から、今後しばらくは電気自動車に頼らざるを得ないが、最終的には水素を使った、燃料電池自動車あるいは水素エンジンが主流になった社会になっていくであろうと考えている。と話されました。講演後は質疑の時間が設けられ、3人の会員が質問し、先生が丁寧に回答されていました。

先生のお話は、地球温暖化の現状と原因、その対応策について具体的な資料に基づく説明でしたので、これまで漠然と理解していたことが明確になったように思います。特に、二酸化炭素がなぜ温暖化の原因なのかが理解できました。ただ、燃料電池の仕組みについての説明が専門的なためか省略されたのは残念でした。

講演後は食事をとりながら和やかに懇談をする中、サークルの代表者によるサークル紹介がありました。中でも「やさしい太極拳」の紹介では、長田さんと徳成さんがコスチュームに着替え、模範演技を披露しました。



模範演技を披露する太極拳のメンバー

最後に鈴木代表のハーモニカ伴奏に合わせ、全員で「ふるさと」を歌い、会員の集いは閉会となりました。

なお、会場入り口には「日野原先生との思い出」コーナーが設置され、日野原先生ゆかりの写真や絵手紙、書籍等が展示されました。



日野原先生との思い出コーナー

参加者は、先生の写真に見入ったり書籍を手にとったりして、先生を偲んでいました。



西 信之先生と参加者

講演：脱炭素エネルギー社会を目指して ～水素の役割～

講師：大学共同利用機関 自然科学研究機構 名誉教授 西 信之氏

【講演要旨】

地球温暖化が急速に進んでいるが（産業革命以前に比べ1.09℃上昇）、これは人間の活動が原因である。つい最近ノーベル物理学賞を受賞した真鍋淑郎さんは、1989年に物理的数値モデルによって地球温暖化の予測研究をネイチャーに発表した。このことが地球温暖化を抑制しようという動き（1997年のCOP3、現在のCOP26等）に結びついており極めて重要な研究である。

世界的に北極海をはじめ北の方の気温上昇が激しく、これが日本の夏の異常気象に関係している。

温暖化の原因となるのは二酸化炭素で、分子が大きく、振動モード（衝突しやすさを表す）数も多いため、太陽の赤外線を吸収して加温、衝突によって加温し熱を発生させやすい。

二酸化炭素排出の最大の原因は石炭火力で、その他石油、天然ガスも二酸化炭素を排出する。また、二酸化炭素の最大の排出国は中国である。

自動車のガソリンや暖房用の石油をすべて電気に置き換えることは、現在の電力供給能力では不可能である。そのためには、現在の発電能力の10倍が必要で、10倍の電気を石炭や石油で発電すると二酸化炭素の排出量も10倍になり、とんでもない温暖化になる。

太陽光発電や風力発電など自然エネルギー発電もあるが、これらにも問題があり、直ちに解決策とはならない。

ヨーロッパでは洋上風力発電が行われており、中国でも導入の動きがあるが、日本ではほんのわずかしが行われていない。日本では、洋上風力発電で起こした電気で水を電気分解して高圧水素を作り、それを燃焼させてタービンを回して発電する水素発電、燃料電池による発電を考えている。

日本では、脱炭素技術の番付でトヨタ自動車の世界1位に選出されるなど、産業としては脱炭素に向けた準備をしている状況である。

私（西先生）が開発に携わった材料（MCND）を心臓部に使用したトヨタの新型ミライの燃料電池は、白金の量を半分にしても旧型ミライよりも高出力を得られる成果を上げており、世界一の性能である。トヨタではこの燃料電池をパッケージ化したモジュールを開発しており、これをBMW等の海外の自動車メーカーに販売していくことになるだろう。

水素は爆発するのではないかと心配する向きがあるが、水素は軽く天井に溜まりやすいので逃がすシステムを検討しており、また、火の中に投げ込んでも爆発しない耐高圧炭素繊維の容器も開発されており、問題はない。

トヨタでは静岡県裾野市で未来都市、実証型の都市を建設しており、2025年までに入居し、燃料電池発電や自動運転車などの先端技術を住民が実際に使って暮らす計画である。

世界的にガソリン車やディーゼルエンジン車の販売を禁止する動きが進んでおり、石油が売れなくなるという時代が十数年後には到来する。自動車以外でもJR東日本と日立製作所が燃料電池等を使用した試験車両の運行を始めようとしており、アメリカでも東海岸と西海岸を結ぶ大型トラックに燃料電池を搭載する計画が始まろうとしている。

以上から、今後しばらくは電気自動車に頼らざるを得ないが、最終的には水素の燃料電池自動車あるいは水素エンジンが主流になった社会になっていくだろうと考えている。（文責：高木正二）

「老いるということのある出来事」

松田 隆一

おしゃべり会で芭蕉の「奥の細道」のことを話題にしました。

発句「草の戸も 住み替わる代ぞ ひなの家」

その昔、高校時代、受験のために古典を勉強しなければなりません。しかし、その当時の私には、芭蕉が表さんとした内容が全く理解できませんでした。時を経て、老年となった今、芭蕉が人のところをいかに深く感じ取っていたかが分かる思いがします。これから旅に出ようとする自分の住んでいた家に新しい住人が来る。その家族には子供がいて、ひな壇を飾ります。芭蕉はその子供達に遥かに慈しみを覚えたとは私は解しました。

私の家でも、娘はもう嫁いで、私の母が作った真多呂人形は老いた我ら二人だけで飾ることになっています。幼かった娘の将来を思いつつ仕上げた母を思い出す日でもあります。日本文学の俳句は海外においても注目され、故ドナルド・キーン博士を初め、文学者が日本語と外国語の橋渡しをしています。私には日本語の少なくとも韻文は、翻訳は不可能と思っています。ドナルド・キーンさんにも

「奥の細道」の書があります。そこでは俳句をアルファベットで、つまりローマ字で表しています。

私の解釈では外国人は俳句の「音」を捉えることができます。そして英文で書かれた俳句の意味・背景・情景を知り、何度も俳句の音を味わうことで、自分なりのイメージを持つことができるのではないかと考えています。

さて、おしゃべり会で、私が冒頭の発句を言い出した時、メンバーの植松さんが、

『月日は百代の過客にして、行きかふ年も又旅人也。船の上に生涯をうかべ、馬の口とらえて老いをむかふる物(者)は、日々旅にして、旅を栖とす。古人も多く旅に死せるあり。……』と発言されました。この呼応は失礼ながら、私には全く予想外でした。



おしゃべり会の様子

おしゃべり会ではこのような嬉しい出来事があります。皆様のご参加を切に願っております。

第2回会員の集いのお知らせ

延期しておりました第2回会員の集いを次のとおり開催しますのでご参加下さい。

日時：2022年2月19日(土)11:00~13:30

場所：金沢ニューグランドホテル

演題：股関節のストレッチ体操で健康増進！

講師：東山和義氏(会員)

会費：3,500円(昼食代を含む)

同封の「返信ハガキ」に出欠を記入のうえ2月10日までに投函をお願いいたします。

川柳

(順序不同)

大島 恒治

ジューパンの裂けめにのぞく若き膝

家族葬いかがと秋の電話口

体温計目盛りがよめずまず眼科

二刀流俺もと胸はる草野球

高木 要子

ラジカセの鈴虫鳴くや茶会席

ゴミ出してカラスと対峙5分間

古希以来毎年減らす年賀状

ふるさとを想う 方言・訛

植松 茂

方言・訛は、その地その地の共通語です。お盆や年末年始、久しぶりのふるさとです。なつかしい山や川の眺めや、家族との会話、昔の仲間達との同窓会など、方言あってこそ、会話は盛り上がり楽しいものです。

去年の春、孫の結婚式に出席のため、群馬県前橋市へ行った時のことです。新幹線で2時間ほどで高崎駅に着き、ローカル線の待合室に入ったところ、元気な高校生たちの上州弁の会話が ～「そうだんべー」「そうだいなー」、故郷・ふるさとの懐かしい方言でした。

翌日、結婚式後の披露宴を楽しんでいる途中、突然司会者が「今日ご参加の中で最高齢の90歳で遠い北陸の金沢から～」と私を指名してマイクを手渡されたのです。ほろ酔い気分であった私は立ち上がり、その“遠い北陸”の金沢ことばで挨拶・自己紹介を、そしてそのまま手許にあった本「他県人が見た特徴的な金沢ことば」を読んだのです。(オーバーに強弱や抑揚をつけて)

“ありがとう”は「きのどくナ～」

“ばか・まぬげ”は「だら～、だらぶち～」

相手の話にあいつちを打って 「ほ～や～、おいね～」 「ほんながや～」

笑いと拍手をいただきました。

方言は子供の頃から自然に身についた生活用語です。ふるさとの仲間との会話や、怒った時、悲しい時など、自分の気持ちを強く伝えたい時、自然に出るのも方言ではないでしょうか。

ふるさとの訛なつかし駐車場の

人ごみの中に そを聴きにゆく

ふるさとの山に向ひて 言ふことなし

ふるさとの山は ありがたきかな

石川 啄 木

健康メモ

「血管がサビない歩行」

鈴木 雅 夫

本連載の初めに述べましたように、人が生きているのは血管が働いているからであって、血管が健康であれば心臓や脳の病気になりにくいのです。血管の健康には、①運動、②休息、③食事が肝要と述べましたが、なんと言っても一番大切なのは①運動です。

人間は歩く動物です。交通が進化し歩かなくなったら寿命は縮まります。車があればすぐ近くのコンビニでも車で、仕事が済み帰宅後はTV、読書などで椅子に座りっぱなしでは、血液の循環は良くなりません。第47号では、①運動で筋トレとウォーキング15分と書きましたが、これが一番大切なことです。とは言っても、ウォーキングの時間は10～5分でも構いません。何しろ人間にとっては、歩くということが生きていく上で一番大切なことなのです。歩きましょう！

だんだん寒くなって参りましたが、冷えに十分気を付けて下さい。入浴は身体を温め、血液の循環を良くするのに最も効果的なので、毎日必ず行って下さい。40℃のお湯に15分くらいが標準です。シャワーでは代用効果はありません。

食品では、減塩食に対する強力なサポーターとして、黒酢、リンゴ酢等を使われると良いと思います。高血圧に効果的でしょう。

血管年齢を若返らせる食品として、いわし、にんにく、大豆、くるみの四大食品があげられていましたので、追加記載しました。

最後に、血管若返り・長寿への未来に一番大切なことは、「歩行」であることを再確認され、健康に過ごされるよう念じております。

会員懇親会中止のお知らせ

3月に計画しておりました会員懇親会(1泊2日)は、新型コロナ対策など諸般の情勢を勘案し、中止することといたしました。

日々の俳句 花明り

(厚木木)

鈴木雅夫

街道を豪華に飾る百日紅

蝶ネクタイ飾る曾孫は七五三

福岡恒忠

ふくべ滝うるし紅葉に白く落つ

夕紅葉峡谷の陰彩一点

宮下美智子

草の葉に露のしとどや遊女塚

身割れして般若面なる柘榴かな

長丸良子

空の青獅子吼高原散る紅葉

冬座敷読書親しむひとときを

大島恒治

水の輪が二ツ三ツ四ツ時雨くる

落葉掃く熊手にたてかけ僧は留守

新川光子

柿紅葉しばし留まる雨しづく

ゆっくりとふるふき大根煮る夕べ

北山八重子

開門を待つ苔寺の冬紅葉

老いが守る庭千両の赤さかな

時雨る々や菰掛け急ぐ武家屋敷

次回作品募集

	ほ		
	れ		
た	し	ま	れ
	し		
	た		

はめ字作品

多数のご応募有難うございます。
はめ字の極意は、「粹」や「洒落」という遊び心が肝心です(元祖・梅法師様)との事です。この様な調子で面白い作品をお待ちしています。

輝	昔	と	添	そ
い	も	き	う	っ
て	い	め	き	と
る	ま	い	み	寄
よ	も	て	に	り

新川 光子

も	あ	と	二	や
れ	つ	き	人	っ
て	い	め	き	と
く	吐	い	り	今
る	息	て	に	や

大島 恒治

締め切りは2月20日 鈴木雅夫まで

磨	難	と	ん	や
い	し	き	だ	っ
て	い	め	き	と
い	回	い	め	つ
く	転	て	技	か

高木 要子

倍	か	と	に	車
っ	わ	き	心	中
て	い	め	き	と
奴	さ	い	め	っ
さ	千	て	た	さ

飯田 世三

填	読	と	け	長
っ	む	き	る	年
て	い	め	き	と
ま	き	い	関	り
す	筋	て	紙	続

新川 光子

や	つ	と	し	彼
め	ら	き	い	女
て	い	め	き	と
く	自	い	お	の
れ	粛	て	く	楽

高木 要子

又	開	と	便	想
来	く	き	り	い
て	い	め	き	と
よ	い	い	た	ど
ね	日	て	り	け

竹田 芳子

眺	貴	と	き	唯
め	女	き	と	々
て	い	め	き	と
る	っ	い	め	き
よ	心	て	き	め

飯田 世三

も	い	と	も	年
っ	た	き	と	を
て	い	め	き	と
い	と	い	に	っ
る	お	て	は	て

水口まり子

す	い	と	往	期
べ	る	き	き	待
て	い	め	き	と
己	ま	い	す	不
に	は	て	る	安

竹田 芳子

覚	踊	と	唄	越
え	は	き	こ	中
て	い	め	き	と
い	ま	い	り	賀
る	も	て	こ	村

飯田 世三

女	か	と	り	奥
侠	つ	き	の	の
て	い	め	き	と
き	だ	い	り	の
と	己	て	こ	祭

飯田 世三

編集後記

皆様のご協力により、会報50号を発行する事が出来ましたことを感謝します。

新型コロナ禍の影響がこんなに長くなるとは思いませんでした。ワクチン接種も進み、感染及び重症化のリスクが低減したことで少しは安心です。何よりも皆さんの健康と安全を第一優先としました。

この度は、久しぶりに多数の参加者と共に「第3回会員の集い」を開催することが出来ました。今後とも皆さんの寄稿をよろしく願います。

(数澤輝夫 記)

次号の発行は2022年4月1日、原稿締切日は2022年2月20日です。字数は原則800字程度でお願いします。

送付先：山内ミハル

〒921-8163 金沢市横川2-268-2

E-mail huukowanwan@pf6.so-net.ne.jp

編集責任者：世話人代表 鈴木雅夫

編集委員：山内ミハル、数澤輝夫、新川光子、

福岡恒忠、高木正二

印

刷：榎谷印刷 金沢市中村町28-14